



第192号 編集発行 愛知学院大学 事務局 庶務課 470-0195 愛知県日進市岩崎町 泉池12 電話(0561)73-1111(代)

# 学長就任挨拶

学長 佐藤悦成



この度、10月1日付けで愛知学院大学の学長に就任いたしました佐藤悦成です。大野前学長のご業績を受け継ぎ、本学が未来志向型の総合大学としてますます発展するとともに、教職員がやりがいを持って教育・研究に取り組める大学になるよう全力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

学長への就任にあたり、基本的な考えを以下に申し述べます。  
**基本理念**  
建学の精神である「行学一体」「報恩感謝」を基盤として、自分の可能性に挑戦し、協働の場で主体的に活躍できる人材の育成を目標とする。本学での学びにより、知識・技術の習得と人格の高揚に努め、周囲への感謝を忘れず、共によりよい社会の実現に尽力できる人となる教育を目標とし、そのための方策として次の3点を柱とする。  
①主体的学習への転換

初年次には受動的学習からの転換が重要であり、与えられた知識を記憶する学びから、主体的に考える学びへの質的転換に導き、学ぶ楽しさに気づくことで自分の可能性に挑戦する学びの環境を整える。  
②他者との協働と協調  
グループワークなどを通して、互いに教えあひ学びあう。  
③学びの多様性  
指導力、協調性を養い(アクティブラーニング)、社会が必要とする基礎的行動を修得する。教室での座学のみではなく、フィールドワーク、校外ゼミなどの実施により、多様な学びの体験に導く。

まず、全教職員が等しく大学の現況を理解できるように情報の公開を進め、全員が共通の認識をもって教育並びに業務に当たることのできる環境の構築を目指す。  
情報の開示により得られた知見を活用して、各自がその立場を自覚し、互いに持てる能力を発揮して、一致協力して大学力を向上に導くことに重点を置く。  
端的に言えば「自分の仕事を好きになり、誇りを持って職務にあたってほしい」と強く望んでいる。  
**2、教育の方針**  
社会で役立つ人材の育成と良好な教育環境の構築に努める。  
大学で「何を学んだか」が重視される社会となるにはまだ時間が必要であろうが、本学に学ぶ学生諸君は、社会のために働くことを厭わない豊かな人間性と暖かな心を持っている。加えて、企業の日常業務に役立つ実務型教育を実践し、柔軟な適応力を身につけた学生諸君を社会に送り出すことができれば、本学は社会を支える太い柱となることのできる。

また、名城公園キャンパスの3学部では学舎の利便性を生かして、社会人の学び直し需要を開拓することが可能となる。各学部の実務講座が、個人のみならず企業の研修需要も呼び込めるであろう。それがひいては就職への力となり、また、入試にも好影響をもたらすことになるかと考えている。

大学教育の中身が社会から見えることによって、受験生も企業も大学の選び方が変わるであろう。大学には自らの教育内容を社会に開いて信頼を築く努力が求められている。名城公園キャンパス開設はその好機であり、全学での転換の機会である。  
**3、教育力の向上**  
特に初年次教育の重要性——後期中等教育までは、受動的で定められた内容を記憶する知識積み重ね型学習が中心であったといえる。それまでの学びを、大学での自主的学習へと転換し、社会が求める人材を育成する最初の教育を行うのが初年次教育である。  
初年次教育における知の体系化は、学びの意欲を喚起し、専門教育の円滑な受容に大きな役割を果たすことになる。  
受動的学習による知識の断片化を解消し、それまでに得た知識の体系的構築が初年次にできるか否かが大学での学びの成否を分けるであろうことを思えば、初年次教育は極めて重要である。  
ひとつには、現行のLA、SAの体制をより発展させることが目標達成の要となる。高校までに努力して習得した知識を真に自己のものとして、大学での学びに生かせるよう再編成することで、学習意欲の向上、知的欲求の充足に結びつけることが可能となり、続く専門教育に資することになる。

**4、学士力の向上**  
現今、ICT環境の発展は、電子機器による業務の遂行が、社会人として必須の能力となっている。その意味で、社会から求められる知識・技術を習得した人材を、世に送り出す責務を大学は担っている。同時に本学においては、先に記した「行学一体」の建学の精神を体して人格教育を進めるとともに、「報恩感謝」の理念に基づいて、周囲と和して協働できる人材を育成する。大学は学士力向上の目的達成のため、全教職員の叡智を結集させたFD活動を今以上に活発化させ、学生諸君の学びを強く支援する必要がある。  
また、PBL (Project-Based Learning) 「課題解決型学習」への取り組みにより、従来型の教育体系からの脱却に向かう必要がある。  
近年の高度情報化社会に代わられる科学の進歩に対して、従来型の「講義・演習」の積み上げにより教育量を増やしたとしても、多岐にわたる学問分野を網羅できないばかりか、逆に学習の目的を見失い、意欲を削がれる結果となろう。個々の学生に適した方法論の習得と確立を重視する必要がある。PBLでは具体的な課題を設定するため、問題解決に向かつて意欲的に取り組むことが可能となり、その過程で自分の方法論を獲得することができると考える。  
**5、入試の改善**  
18歳人口の減少による大学受験者数減少が大学経営に深刻な影響を及ぼしている現今、新たに志願者の掘り起こしを考えることが急務である。従来、AO入試がその一方で、あつたが、入学後の修学に問題が生じる場合があり、入試方法として消極的になりつつある。しかし、一方で多様性のある学生を受け入れ、その能力を引き出す教育を実践している他大学もある。  
本学が教育の可視化を進めることで、何を学べるか・何が求められるようになるかを、受験生自ら判断できるように導き、自らが望む学びを選択できる大学となる必要がある。

**6、キャリアサポート**  
本学はこれまでに12万人を超える卒業生を送り出してきた。同窓会・後援会の組織力を積極的に生かした支援を得ることで、現代の社会が望む人材を送り出す体制が強化できると考えている。  
卒業生に企業の経営者が多いのも本学の特徴であり、経営者間の交流、キャリアサポートの一環としての交流の場として名城公園キャンパスの活用が可能である。就職支援は、本学に学んだ学生諸君への責任と社会への責務を全うすることである。  
**7、将来構想に関わる項目**  
特に名城公園キャンパスでは、その地の利を充分にいかして、商・経営・経済の3学部で協力した取り組みを考えると、大学全体で経済界や地域商店街などの連携を強化して可能性を広げたい。歯学部と薬学部および心身科学部においても、これまで進めてきた社会連携をさらに強化できるよう、大学として後援を継続する。法学部も地域連携の取り組みを開始しているが、試みをさらに発展させるべく努力したい。  
・キャンパス整備の問題  
—日進キャンパスの空洞化対策も含めて—  
名城公園キャンパスの場合、今後も継続的かつ計画的に設備などを充実していかなければならない。補元キャンパスも、これまでの整備計画の実施を進める必要がある。日進キャンパスは、文学部、心身科学部、法学部、教養部が相互に協力して、どのような新しい利用を行うかを検討しながら、大学としての方針を決定したいと考えている。特に日進キャンパスの場合には、単なる敷地や設備の問題にとどまらず、大学全体の将来を

見ることができ、受験生も企業も大学の選び方が変わるであろう。大学には自らの教育内容を社会に開いて信頼を築く努力が求められている。名城公園キャンパス開設はその好機であり、全学での転換の機会である。  
**3、教育力の向上**  
特に初年次教育の重要性——後期中等教育までは、受動的で定められた内容を記憶する知識積み重ね型学習が中心であったといえる。それまでの学びを、大学での自主的学習へと転換し、社会が求める人材を育成する最初の教育を行うのが初年次教育である。  
初年次教育における知の体系化は、学びの意欲を喚起し、専門教育の円滑な受容に大きな役割を果たすことになる。  
受動的学習による知識の断片化を解消し、それまでに得た知識の体系的構築が初年次にできるか否かが大学での学びの成否を分けるであろうことを思えば、初年次教育は極めて重要である。  
ひとつには、現行のLA、SAの体制をより発展させることが目標達成の要となる。高校までに努力して習得した知識を真に自己のものとして、大学での学びに生かせるよう再編成することで、学習意欲の向上、知的欲求の充足に結びつけることが可能となり、続く専門教育に資することになる。

また、名城公園キャンパスの3学部では学舎の利便性を生かして、社会人の学び直し需要を開拓することが可能となる。各学部の実務講座が、個人のみならず企業の研修需要も呼び込めるであろう。それがひいては就職への力となり、また、入試にも好影響をもたらすことになるかと考えている。

現今、ICT環境の発展は、電子機器による業務の遂行が、社会人として必須の能力となっている。その意味で、社会から求められる知識・技術を習得した人材を、世に送り出す責務を大学は担っている。同時に本学においては、先に記した「行学一体」の建学の精神を体して人格教育を進めるとともに、「報恩感謝」の理念に基づいて、周囲と和して協働できる人材を育成する。大学は学士力向上の目的達成のため、全教職員の叡智を結集させたFD活動を今以上に活発化させ、学生諸君の学びを強く支援する必要がある。  
また、PBL (Project-Based Learning) 「課題解決型学習」への取り組みにより、従来型の教育体系からの脱却に向かう必要がある。  
近年の高度情報化社会に代わられる科学の進歩に対して、従来型の「講義・演習」の積み上げにより教育量を増やしたとしても、多岐にわたる学問分野を網羅できないばかりか、逆に学習の目的を見失い、意欲を削がれる結果となろう。個々の学生に適した方法論の習得と確立を重視する必要がある。PBLでは具体的な課題を設定するため、問題解決に向かつて意欲的に取り組むことが可能となり、その過程で自分の方法論を獲得することができると考える。  
**5、入試の改善**  
18歳人口の減少による大学受験者数減少が大学経営に深刻な影響を及ぼしている現今、新たに志願者の掘り起こしを考えることが急務である。従来、AO入試がその一方で、あつたが、入学後の修学に問題が生じる場合があり、入試方法として消極的になりつつある。しかし、一方で多様性のある学生を受け入れ、その能力を引き出す教育を実践している他大学もある。  
本学が教育の可視化を進めることで、何を学べるか・何が求められるようになるかを、受験生自ら判断できるように導き、自らが望む学びを選択できる大学となる必要がある。

本学はこれまでに12万人を超える卒業生を送り出してきた。同窓会・後援会の組織力を積極的に生かした支援を得ることで、現代の社会が望む人材を送り出す体制が強化できると考えている。  
卒業生に企業の経営者が多いのも本学の特徴であり、経営者間の交流、キャリアサポートの一環としての交流の場として名城公園キャンパスの活用が可能である。就職支援は、本学に学んだ学生諸君への責任と社会への責務を全うすることである。  
**7、将来構想に関わる項目**  
特に名城公園キャンパスでは、その地の利を充分にいかして、商・経営・経済の3学部で協力した取り組みを考えると、大学全体で経済界や地域商店街などの連携を強化して可能性を広げたい。歯学部と薬学部および心身科学部においても、これまで進めてきた社会連携をさらに強化できるよう、大学として後援を継続する。法学部も地域連携の取り組みを開始しているが、試みをさらに発展させるべく努力したい。  
・キャンパス整備の問題  
—日進キャンパスの空洞化対策も含めて—  
名城公園キャンパスの場合、今後も継続的かつ計画的に設備などを充実していかなければならない。補元キャンパスも、これまでの整備計画の実施を進める必要がある。日進キャンパスは、文学部、心身科学部、法学部、教養部が相互に協力して、どのような新しい利用を行うかを検討しながら、大学としての方針を決定したいと考えている。特に日進キャンパスの場合には、単なる敷地や設備の問題にとどまらず、大学全体の将来を

視野に入れて取り組む課題である。  
・大学のグローバル化対策  
現今のグローバル社会の到来に対して、本学が今後どのように対処するのか、長期的視点で検討が必要である。これまでも海外の大学との提携を進めてきたが、これを基礎としながら、さらに多くの海外からの留学生を受け入れて教育できる大学になるために、大学全体で研究し、発展の方向を見出ししていきたい。研究交流に終わらず、人的交流に発展させていくことが重要である。

さらに、本学学生諸君の留学を積極的に支援し、その経験を世界規模で生かせるキャリアサポートに結びつけたいと考えている。  
様々な記しましたが、全てを一挙に実現させることはできないでしょう。しかし、実行可能な項目から実直に努力してゆきたいと考えています。皆様のご支援を宜しくお願いいたします。

第192号 編集発行 愛知学院大学 事務局 庶務課 470-0195 愛知県日進市岩崎町 泉池12 電話(0561)73-1111(代)

記した「行学一体」の建学の精神を体して人格教育を進めるとともに、「報恩感謝」の理念に基づいて、周囲と和して協働できる人材を育成する。大学は学士力向上の目的達成のため、全教職員の叡智を結集させたFD活動を今以上に活発化させ、学生諸君の学びを強く支援する必要がある。  
また、PBL (Project-Based Learning) 「課題解決型学習」への取り組みにより、従来型の教育体系からの脱却に向かう必要がある。  
近年の高度情報化社会に代わられる科学の進歩に対して、従来型の「講義・演習」の積み上げにより教育量を増やしたとしても、多岐にわたる学問分野を網羅できないばかりか、逆に学習の目的を見失い、意欲を削がれる結果となろう。個々の学生に適した方法論の習得と確立を重視する必要がある。PBLでは具体的な課題を設定するため、問題解決に向かつて意欲的に取り組むことが可能となり、その過程で自分の方法論を獲得することができると考える。  
**5、入試の改善**  
18歳人口の減少による大学受験者数減少が大学経営に深刻な影響を及ぼしている現今、新たに志願者の掘り起こしを考えることが急務である。従来、AO入試がその一方で、あつたが、入学後の修学に問題が生じる場合があり、入試方法として消極的になりつつある。しかし、一方で多様性のある学生を受け入れ、その能力を引き出す教育を実践している他大学もある。  
本学が教育の可視化を進めることで、何を学べるか・何が求められるようになるかを、受験生自ら判断できるように導き、自らが望む学びを選択できる大学となる必要がある。

本学はこれまでに12万人を超える卒業生を送り出してきた。同窓会・後援会の組織力を積極的に生かした支援を得ることで、現代の社会が望む人材を送り出す体制が強化できると考えている。  
卒業生に企業の経営者が多いのも本学の特徴であり、経営者間の交流、キャリアサポートの一環としての交流の場として名城公園キャンパスの活用が可能である。就職支援は、本学に学んだ学生諸君への責任と社会への責務を全うすることである。  
**7、将来構想に関わる項目**  
特に名城公園キャンパスでは、その地の利を充分にいかして、商・経営・経済の3学部で協力した取り組みを考えると、大学全体で経済界や地域商店街などの連携を強化して可能性を広げたい。歯学部と薬学部および心身科学部においても、これまで進めてきた社会連携をさらに強化できるよう、大学として後援を継続する。法学部も地域連携の取り組みを開始しているが、試みをさらに発展させるべく努力したい。  
・キャンパス整備の問題  
—日進キャンパスの空洞化対策も含めて—  
名城公園キャンパスの場合、今後も継続的かつ計画的に設備などを充実していかなければならない。補元キャンパスも、これまでの整備計画の実施を進める必要がある。日進キャンパスは、文学部、心身科学部、法学部、教養部が相互に協力して、どのような新しい利用を行うかを検討しながら、大学としての方針を決定したいと考えている。特に日進キャンパスの場合には、単なる敷地や設備の問題にとどまらず、大学全体の将来を

視野に入れて取り組む課題である。  
・大学のグローバル化対策  
現今のグローバル社会の到来に対して、本学が今後どのように対処するのか、長期的視点で検討が必要である。これまでも海外の大学との提携を進めてきたが、これを基礎としながら、さらに多くの海外からの留学生を受け入れて教育できる大学になるために、大学全体で研究し、発展の方向を見出ししていきたい。研究交流に終わらず、人的交流に発展させていくことが重要である。

さらに、本学学生諸君の留学を積極的に支援し、その経験を世界規模で生かせるキャリアサポートに結びつけたいと考えている。  
様々な記しましたが、全てを一挙に実現させることはできないでしょう。しかし、実行可能な項目から実直に努力してゆきたいと考えています。皆様のご支援を宜しくお願いいたします。

新学長におかれましては、愛知学院の教育・研究の水準向上に努めるとともに大学の校務を統括していただきたく存じます。  
平成26年6月27日に「学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律」が公布され、平成27年4月1日から施行されます。これは大学運営における学長のリーダーシップの確立やガバナンス改革を促すための法律の一部を改正するものです。これにともない学院としても学長の指導のもと新たな組織を立ち上げ内部規則等の点検、見直しを推進してまいりますので、教職員各位のご協力ご加担をよろしくお願い申し上げます。

# 学長交代に寄せて

理事長 中野重哉



本年度より愛知学院の選任理事長として就任いたしました中野重哉と申します。学院発展のために、地域社会に開かれた大学をめざし、キャンパス近隣の方々や商店街との連携も密接に図り、地域社会の人びとと共に育つ、地域社会に根ざした大学の実現をめざしてまいりました。  
入試で多様な能力を秘めた志願者を獲得することができ、さらに大学における充実した学びにより、その能力を伸ばすことができれば、社会の要請に応えられる有能な人材を輩出することができよう。  
本学はこれまでに12万人を超える卒業生を送り出してきた。同窓会・後援会の組織力を積極的に生かした支援を得ることで、現代の社会が望む人材を送り出す体制が強化できると考えている。  
卒業生に企業の経営者が多いのも本学の特徴であり、経営者間の交流、キャリアサポートの一環としての交流の場として名城公園キャンパスの活用が可能である。就職支援は、本学に学んだ学生諸君への責任と社会への責務を全うすることである。  
**7、将来構想に関わる項目**  
特に名城公園キャンパスでは、その地の利を充分にいかして、商・経営・経済の3学部で協力した取り組みを考えると、大学全体で経済界や地域商店街などの連携を強化して可能性を広げたい。歯学部と薬学部および心身科学部においても、これまで進めてきた社会連携をさらに強化できるよう、大学として後援を継続する。法学部も地域連携の取り組みを開始しているが、試みをさらに発展させるべく努力したい。  
・キャンパス整備の問題  
—日進キャンパスの空洞化対策も含めて—  
名城公園キャンパスの場合、今後も継続的かつ計画的に設備などを充実していかなければならない。補元キャンパスも、これまでの整備計画の実施を進める必要がある。日進キャンパスは、文学部、心身科学部、法学部、教養部が相互に協力して、どのような新しい利用を行うかを検討しながら、大学としての方針を決定したいと考えている。特に日進キャンパスの場合には、単なる敷地や設備の問題にとどまらず、大学全体の将来を

創立 138周年

大学教育の一層の充実・強化を!

学院長 小出 忠孝

式辞(要旨)

本日学院創立138周年記念式を迎え誠に喜びに耐えませ...

業として大学を創設した事です。旧制の中学・女学校を...

「中部最大級の私大へ」 当時わが国は経済高度成長期にあり...

「大学教育の質的転換」 この様に本学は全国的に評価される...

「学院大学の誇りを」 以上本学では時代の変化に対応し...

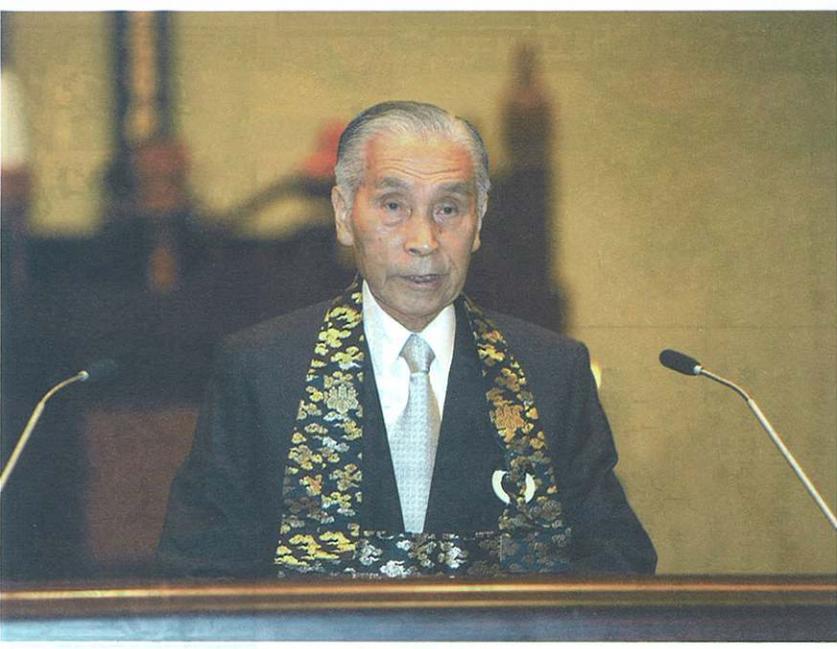
「学院大の飛躍的発展」 次に戦後の学制改革に際し...

第三に昭和36年中部地区最初の歯学部を創設し...

「名城公園キャンパス」 本年創立138年に当たり...

可能な開発のための教育(ESD)の10年」が展開され...

愛知学院創立138周年記念式典が10月11日(土)午前...



一方学生の課外活動では多くのクラブや選手個人が...

「ESD大学生リレー・シンポ」 2005年から国連「持続...

40年勤続者 文学部 教授 大野 榮人



また、平成26年度永年勤続表彰は次の皆さん。

創立138周年 記念式典を挙げる

Table listing staff members and their positions, including 40-year and 25-year service members.

Table listing staff members and their positions, including 35-year and 15-year service members.



Table listing staff members and their positions, including various department heads and faculty.

2015年  
4月

# 英語英米文化学科が誕生

## 文学部国際文化学科を名称変更

本学では、グローバル化が進む現代のニーズに対応するため、英語運用能力と異文化理解力を身につけた人材を養成する「英語英米文化学科」の開設を進めてきた。このたび、平成26年8月25日付けで文学部「国際文化学科」から名称変更する届出が文部科学省で受理され、平成27年4月より「英語英米文化学科」として誕生することが決定した。国際文化学科は昭和61年に設置され、コミュニケーションの道具としての英語力を磨き、英語圏を中心に世界のさまざまな地域の人々の価値観や文化を理解したうえで、国

際社会で活躍できる人材を育成してきた。設置から約30年が経ち、学生のニーズも変化し、近年は過半数の学生が英米文化領域を扱うゼミや卒業論文を選択するようになり、「英語による英米文化の授業をしてほしい」「学科の海外研修がある」といなどの要望も多くなった。これらの状況をふまえて、学科名を「英語英米文化学科」に変更し、英語運用能力の向上を目指す語学科目と、英米を中心とする言語、歴史、社会などの文化理解科目の充実をはかることにした。「英語英米文化学科」にご期待ください。

アメリカ文化、イギリス文化、英語圏文化、英語研究の4領域を設定。名称変更にあたって新たに開講する科目には、外国人教員が英語で多様な文化について教え、学生も英語で自分の意見を述べる「Culture through English I, II, III」や、英語圏地域への文化研修および日本での英語キャンプを実施する「English/Culture Tour I, II, III, IV」などがある。国際化が進む日本、そして海外で多様な文化背景を持つ人々とともに英語を使って活躍できる人材を育成していく「英語英米文化学科」にご期待ください。

### 薬学部医療薬学科 創設10周年記念行事を開催

本学薬学部が今年度開設10周年を迎えたのを記念して、9月27日、午後2時よりルプラ王山で記念行事が行われた。記念行事には本学関係者、同窓生など約70名が出席した。

記念式典は、植彰・薬学部長の開式の辞に始まり、本法人の中野重哉・理事長ならびに小出忠孝・学院長の挨拶の後、来賓の立派延族・名古屋市薬剤師会会長と青山稔・後援会会長が祝辞を述べた。午後3時半からの記念講演会では、文部科学省高等教育局長の吉光紗綾子氏が講演を行った。「新薬学教育モデル・コア・カリキュラムと薬学部教育について」と題して行われた講演では、平成27年4月から実施される薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂体制の変更について、また今後の薬学部教育の方向性について説明があり、出席者は真剣な表情で聞き入っていた。

続いて午後5時から祝賀会が開かれ、植彰・薬学部長ならびに大野榮人・前学長による挨拶の後、安井友浩・薬学部同窓会会長が音頭をとり乾杯した。祝賀会は、退任された教授が在職時の思い出を語るなど、和やかな雰囲気にも包まれ、午後7時盛会のうちに終了した。



続いて午後5時から祝賀会が開かれ、植彰・薬学部長ならびに大野榮人・前学長による挨拶の後、安井友浩・薬学部同窓会会長が音頭をとり乾杯した。祝賀会は、退任された教授が在職時の思い出を語るなど、和やかな雰囲気にも包まれ、午後7時盛会のうちに終了した。

続いて午後5時から祝賀会が開かれ、植彰・薬学部長ならびに大野榮人・前学長による挨拶の後、安井友浩・薬学部同窓会会長が音頭をとり乾杯した。祝賀会は、退任された教授が在職時の思い出を語るなど、和やかな雰囲気にも包まれ、午後7時盛会のうちに終了した。

## 臨沂大学と本学が 学術交流協定を締結

本学と中国の臨沂大学が学術交流協定を結び運びとなり、9月3日、調印式が臨沂大学にて行われた。



本学からは大野榮人・前学長、引田弘道国際交流センター所長、丹下博文経営学研究科長、西尾公司国際交流センター事務局長が出向き、臨沂大学の楊波学長と学術交流に関する覚書の調印を行った。臨沂大学は中国山東省臨沂市に設立された総合大学。現在、23学部にて約4万人の学生が在籍している。本学経営学研究科の修了生が会長を務める企業グループが臨沂大学と提携していることをきっかけに、臨沂大学から打診があり、学術交流協定を締結する運びとなった。今後は互いの教育・研究の水準を向上させるため、学術交流を行っていく。

## 秋季学位記授与式

平成26年度秋季学位記授与式が9月30日(火)日進キャンパス本部棟3階大会議室、楠元キャンパス薬学部棟会議室にてそれぞれ行われた。今回対象となったのは学部生117名、大学院博士課程前期修了者4名。

日進キャンパスでは大野榮人学長より大学院生、学部生代表者に学位記が手渡された。その後、大野学長の式辞に続き、中野理事長、丹下経営学研究科長、林文学部部長の祝辞があり、本学を巣立つ学生らにエールを送った。その後、学部別に分かれて各学部長よりそれぞれ学位記が手渡された。



## 本学歯学部モンゴル診療隊に モンゴル国ダルハン県より友好勲章



本学歯学部有志の教員や学生ボランティアが、17年間にわたりモンゴルの各地で行っている無償歯科ボランティア活動に対して、このたびモンゴル国ダルハン県より友好勲章が授与された。昨年は、モンゴル国大統領が歯学部部員への長年の医療協力(留学生の受入等教育支援や口腔蓋裂の無償手術等)に対して、田中貴信歯学部部長に北極星勲章が授与されており、歯学部の多方面に渡る社会奉仕活動がモンゴル政府より高く評価されている。同国では現在、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(A)を受けて学術調査も並行して行われており、同窓生や愛知高校生など高校生のボランティアも参加している。また、9月より口腔病理学講座に2名の留学生が来日する予定である。

## 未来口腔医療研究センター 菅 修平研究員 「日本炎症・再生医学学会で優秀演題賞」

平成26年7月1日(土)5日に沖縄県名護市で開催された第35回日本炎症・再生医学学会、第1回日本骨免疫学会合同年會において、本学大学院歯学研究科未来口腔医療研究センター、菅 修平研究員が「自己集合性ペプチドSPG-178による骨修復促進効果」の発表により「優秀演題賞」を受賞した。本賞は会期中の全研究発表のうち、特に優秀と評価された数演題に授与される。今回の受賞演題は歯学部内科学講座、成瀬桂子准教授、松原達昭教授指導の下実施されている歯髄幹細胞を用いた研究成果の一つとして発表された。3次元培養用を開発された合成ペプチドゲル(株式会社メニコン提供)を骨損傷部位への充填に転用すること、従来の生物由来物質の課題である感染性や異種免疫反応を回避できる骨修復促進基剤の提供と幹細胞移植手法の可能性を示したものである。本発表は、骨再生研究に関する実績を蓄積している歯科理工学講座をはじめ有床義歯学講座、歯周病学講座との協



## 丹下博文 経営学部教授 日本物流学会賞を受賞



平成26年9月12日に本学経営学部の丹下博文教授が、日本物流学会より学会賞(著書)を受賞した。先生は本年3月に「企業経営研究」三部作を完成させるために「企業経営の物流戦略研究」と題する著書を中央経済社から出版し、これが同学会において慎重・公正に選考された結果、物流に関する学問体系の確立に資する顕著な研究業績に当たると高く評価された。同著では「ロジスティクス・マーケティング」という物流重視の画期的な戦略概念が提唱され、物流やロジスティクスの分野は、もはや経費を削減するコスト・センターではなく、マーケティングと同じように利益を創出するプロフィット・センターになるという戦略的な観念の導入が企業経営に必要になってきたと主張されている。先生の学会賞受賞は平成15年の環境経営学会の学会賞(学術貢献賞)受賞に続いて2回目。今後のますますの活躍が期待される。

# 就職活動について

3年生

就職活動が現行の「3年生の12月」から「大学3年生の3月」に3ヶ月後ろ倒しになります。学生のメリットとしては、大学3年生の終わりで、大学3年生の終わりで、夏休みはもちろん、冬休みもインターンシップに使うことができますようになります。また、3年のときに留学していたも、3月解禁であれば、帰国した春休みに他の学生とともに就職のスタートをきることもできるので、不利にならないでしょう。他方、企業にのつてのデメリットあるいは懸念材料としては、外資系企業や経団連に加盟しない新興企業などが経団連の倫理憲章に縛られないため、「3月解禁」を守らずにフライングして学生にコンタクトをとり、混乱させるのではないかとこの声もあります。

2016年卒は「8月までに内定が取れないときのリスクが高い」就職活動を乗り越えなければならぬということなのです。

今までの就活スケジュールであれば、4月で大手企業を中心とした第一希望群の企業にすべて落ちてしまったとしても、内定式がある10月まで夏休みも含め約半年ありました。その期間で、自分の就活を再度振り返り修正していく。そして内定を獲得していくという時間をとることができました。ですが、2016年卒に関しては、その期間がほとんどないため、第一志望群の企業選考が集中する8月の時期を逃してしまおうと、内定式に間に合わず、さらに卒業論文や年末イベントの中で、就活を両立させていく必要が出てきてしまうということです。

この現状から、「4年生から就活になったんだ。よかつたよかつた。」と思うのはちょっと違う感じがします。時期が後ろ倒しになって、何がいちばん変わるのかを見間違えてはいけません。注目すべきはスタートの時期というより、終わるタイミングのほうです。何を言っているかというと言くと、毎年4年次の10月に行われる内定式のタイミングは、2015年卒も2016年卒も変わらない。ここがポイントになります。つまり、大手企業が一気に「選考→内定出し」を進める8月のタイミングで、就活に失敗してしまおうということになると、内定式まで2ヶ月ないという状況が待っているということになります。だからこそ、

ツチが明らかであるような無益な応募が減り、企業と学生の双方にメリットをもたらすとも考えられます。

要は、学生に「企業を選ぶ眼力」があるかどうかです。経済や経営を専攻する学生さえも、多くは大手有名企業やイメージ戦略に長けた新興企業に目を奪われがちです。これには親の過干渉も影響します。「一部上場企業でなければ不安だ」とか、「テレビでコマーシャルをしているような企業でなければダメだ」といった偏った見方で、子どもの志望先を否定することもあ

るようです。企業のタイプは、一般消費者を対象とするビジネスを中心に行う「BtoC」と企業や官公庁を対象とする「BtoB」に分かれますが、学生は「BtoB」企業に対する知識が乏しく、選ぶのは「BtoC」企業に偏っています。中にはシェアが世界一の製品をもつ企業や最先端の技術力を有している企業もあるのに、成長力のある中小企業に目を向ける学生はわずかです。そこで、企業職場体験ができるインターンシップへの需要が高まることも予想されます。

確かに、3月からスタートして8月に内定が出れば、理想だと思います。おそらく2016年卒は、8月前に内定を獲得する学生がかなりたくさん出るとは思います。とはいえ、8月の段階でどれだけの就活生が「納得のいく企業先から内定をもらえるか」が勝負だと思えます。

一方、企業にとつては、なるべく多くの学生と接触し、その中から優秀な学生を選抜し、早期に獲得できることが望ましいわけですね。

今回、新ルールによつて就職活動の日程が後ろ倒しになり、その分、「短期決戦」の様相を呈することに、学生側はもつと真剣に入社したい企業を選ぶようになるのではという見方があります。そうすれば、あらかじめミスマ

ッチが明らかであるような無益な応募が減り、企業と学生の双方にメリットをもたらすとも考えられます。

は、毎週200社ちかいか求人を受けていた方がいいです。さらには、学外での合同説明会なども開催されていますので、アンテナを高く伸ばして各種の情報をキャッチしていただきたいと思えます。

1・2年生

就活スタート時に大きな差をつける3つの方法

ここでは、1・2年生のうちから意識しておくことで、就活スタート時に圧倒的な差がつく3つのポイントを紹介いたします。

OB・OG訪問をしよう

実際に社会で働いている先輩に話を聞きに行くことを言います。どんなことに気を付けて大学生活を過ごせばいいのか、自分の仕事の楽しいところ、自分の生活水準はどれくらいか、など、様々なアドバイスをいただくことができます。失敗しない大学生活を送るための大きなヒントを得られます。ただ、漫然と日々を過ごしている人とは圧倒的に差がつくのです。

堅苦しいイメージのある就職活動ですが、前もってちょっとずつ準備をしておいたり早めに知識を持つておくことです。他の人よりも簡単に、早く就職活動を終わらせることができます。他の人よりも自分にあつた会社に入ることができ

キャリアセンター就職課長 伊藤孝真

## 日進市市制20周年7大学連携携学長記念講座

### 大野榮人・前学長が講演

日進市市制20周年事業として開催されている「7大学連携携学長記念講座」の第4回講座が、9月25日(木)、日進キャンパスやきテラスにて開催された。

当日は、大野榮人・前学長が「仏教における苦悩の解決法」と題して、仏教の教えや専門的な用語などについて自身の経験などを交えながら丁寧に講演した。

定員100名のところ150名もの市民らが聴講し、会場では時折笑い声がおこるな



日進市市制20周年事業として開催されている「7大学連携携学長記念講座」の第4回講座が、9月25日(木)、日進キャンパスやきテラスにて開催された。

## 日本拳法部創部50周年記念祝賀会が開催される

今年度、日本拳法部は創部50周年を迎え、9月28日にヒルトン名古屋2階「One One」に於いて、創部50周年記念祝賀会が開催された。OB後援会が主催し、大学からは、大野榮人・前学長、高木敬一学

生部長、清水義和と日本拳法部部長が列席した。他にも、山田日本拳法中部日本本部部長、岩井大学学連統括局長等の来賓をお招きし、現役員20名を含め、総勢約140名で盛大に執り行われた。当日は、開会前に現役学生を被写体としたプロモーション映像が流され、学生時代を懐かしむOB・OGの日本拳法談義に花が咲いていた。その後、過去10年の戦歴報告や新指導体制の発表等が行われた。会場ではOB・OGより現役員への日本拳法に関する指導も多く行われ、日本拳



法部の結束が一段と強くなり、実りある祝賀会となった。

## 本学より博士号を授与



博士(綜合政策) 林 和枝

この度、愛知学院大学より博士(綜合政策)の学位が授与された。

論文題目は「母親を対象とした『いのちの教育』に関する研究―家庭における教育実

践の可能性―である。子どもへの教育の多くを担う母親に焦点を当て、質的・量的研究の両面から家庭における「いのちの教育」を促進するための要因と支援について考察した。本研究は学部生の頃より取り組んできた課題であり、学位が授与されたことは、この上ない喜びである。主査は、本学大学院総合政策研究科の二宮克美教授、副

査は同研究科の竹市良成教授、岩田和男教授ならびに心身科学研究科の大澤功教授である。心理学、教育学、社会学、医学と先生方の専門分野の視点から本論文に関する多くの有益なご助言をいただいた。尊敬する先生方に審査していただき、博士論文を完成できたことは、まことに光栄なことであると感じている。学位取得は研究者としての第一歩である。学術的にも人間的にも成長を続け、今後、さらに研究を深めていきたい。

## 福島県川俣町と日進の子どもら日進キャンパスで交流会

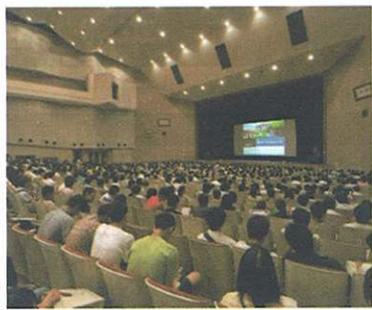
福島県川俣町と日進市の子どもらの交流会が9月14日(日)、日進キャンパスで行われた。交流会は本学が日進市と共同で企画運営して、川俣町の小学生から高校生までの子ども11人と保護者ら13人、日進市の小学生14人、さらに日進市と友好自治体提携を結ぶ長野県木祖村の小学生15人も参加した。

本学ボランティアセンターの学生進行のもと、ゲームなどを楽しみ、川俣町の子ども



が地元で盛んな中南米の民族音楽「フォルクローレ」を演奏。激しさと深みのある音色どもからも拍手が起こった。一行は日進キャンパス内の宿舎に宿泊して2泊3日の行程を本学ボランティアセンターの学生と共にしており、交流会の後は日進市の祭りにも参加した。翌15日にはキャンパス内の坐禅堂で坐禅を体験し、仲良くなった学生らと再会を誓って帰途に着いた。

# オープンキャンパスを開催



今年のオープンキャンパスは、夏は8月1日(金)・2日(土)の2日間、日進・名城公園・補元キャンパスで、秋は10月19日(日)に日進・補元キャンパスで開催された。夏は6613人、秋は1820人の高校生・保護者が訪れ賑わった。

当日は学部教員や学生との個別相談会、模擬授業、体験実習、保護者向け説明会、各種入試対策講座のほか資格・就職等の相談コーナーや、在学生によるキャンパスツアー、サークル体験など、さまざまなイベントが行われた。

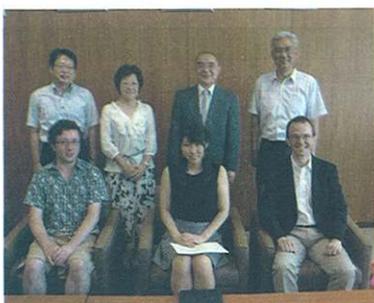
今年4月に開校したばかりの名城公園キャンパスでは、学びの用途に合わせてレイアウト変更できるアクティブラーニング教室や、街中で見かける人気カフェ、キャンパスの使用電力を表示するなど環境に配慮した次世代型エコキャンパスに驚く来場者の姿が見られた。

参加した高校生からは「学部学科の学習内容の違いがわかり、参考になった」、「在学生が明るく、キャンパスに活気があつて楽しそうだった」などの感想が寄せられた。

## 第12回 ボンド大学交換留学生決まる

今年で12年目となるオーストラリア・ボンド大学への交換留学生に文学部グローバル英語学科3年・光延萌子さんが決定し、7月24日(木)、日進キャンパス学長室にて奨学金伝達式が行われた。

伝達式では引田弘道国際交流センター所長、指導教官のグレゴリー・ロウ先生らが見守る中、大野榮人前学長より奨学金30万円が手渡された。光延さんは9月初めから12月末までの1セメスターを交換留学生としてボンド大学の学部生として言語教授法を中



心に学ぶ。将来、海外で日本語教師となることを目指している光延さんは、この機会にさまざまなことにチャレンジしたいと抱負を語った。

## 2014年度 海外語学研修に参加して

# イギリス・カナダ オーストラリア



### イギリスコース 文学部国際文化学科 2年 笹川 瑞希

一日中英語しか聞かえない環境で自分の語学力を試したい、また、異文化に触れ日本との違いを楽しみたいという思いから語学研修に参加しました。イギリス、スコットランドの首都エディンバラにあるエディンバラ大学に3週間通い、スコットランドの文化、歴史、音楽、スポーツの授業や、日常会話を中心とした英会話の授業を受けました。授業中はノートをとることがほとんどなく、会話の練習が中心でした。授業中に日本語を少しでも話すと注意を受けてしまい、初めはそのことに慣れませんでした。最初の頃は、英単語をただどろどろと覚えて、意思の疎通を図りましたが、何日かすると主語や時系列を意識して意見を言えるようになりまし。教室で行う授業のほかに、博物館へ行き展示物について調べたり、伝統的なダンスを教わったりと、様々な方法で英語やスコットランドについて学びました。



放課後や休日はみんなでエディンバラの街を散策したり、自分たちで計画して電車に乗って違う街へ遊びに行ったりしました。8月のエディンバラは毎日がお祭りで大道芸人がそこかしこにいたので、とても賑やかでした。特に、

民族衣装のキルトをはきスコットランドの伝統的な楽器であるバグパイプを演奏している男性がとて多く、街のどこにいてもその音色が聞こえていたことが印象に残っています。

ホームステイは初めての経験で、3週間も言葉の通じない人と暮らすということにとても不安を感じていましたが、ホストファミリーは私を温かく迎え入れてくれました。私のホストファミリーは老夫婦でホストファミリーは仕事をしていたので、ホストマザーと過ごす時間が多かったです。ホストファミリーは以前から何度も留学生を受け入れていたらしく、家には日本、中国、韓国にちなんだ小物がたくさんありました。ホストファミリーが英語をうまく話せない私に合わせてゆっくりと会話

してくれたことがとても嬉しかったです。スコットランドの文化やエディンバラのお勧めのお店について教わったことやニュースを見ながらその解説をしてくれたことは良い思い出です。いつも私のことを気にかけてくれるホストファミリーに感謝するために、私は一生懸命英語を勉強しました。

エディンバラで過ごした3週間、そして最後にロンドンで過ごした3日を通して、日本と違う文化を持った人とコミュニケーションをとることの楽しさを知りました。多くの人が日本に興味を持っていて、お互いの国について話し合うことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。そして、今まで知らなかったものの見方や本を読むだけでは得られない知識を身に付けられたことはとても刺激的な経験でした。語学研修で知ったことや感じたことを忘れずに、英語、そして異文化について考えるときに活かしていきたいと思えます。

### カナダコース 文学部日本文化学科 2年 大島 千明

私の今回の語学研修の目的は2つありました。1つは英語力を向上し自分を成長させること、もう1つはカナダの文化と日本の文化の違いを知ることでした。

私が通った大学、University of Victoriaはキャンパス内にリス、うさぎ等の野生動物が数々現れ、まるでそこが大学というのを忘れてしまうようなとても広い自然豊かな大学でした。大学の English Language Centre という留学生向けの施設で午前中は英語を学び、午後はアクティビティで



カナダの文化を見て学びました。授業は午前8時半から開始で少し早かったですが、とても計画性があり主にリスニングやスピーキングを通して楽しく英語を学ぶことができました。1か月でこんなに成長できるのかと疑いたくなるぐらい英語を聞き取れるようになったし話せるようになったりました。授業のクラスは、1クラス15人程度の少人数クラスで、全部で7クラスありました。クラスメイトに愛知学院大学以外の日本の大学の学生がおりコミュニケーションをとることができ、とても仲良くなることができました。私は幸運なことにそのクラス内でかけがえのない友人を作ることができ、今でも連絡をとっています。アクティビティにおいては、屋外では有名な植物園や博物館、山や川や公園へ行き、また屋内ではドリムキャッチャーという装飾品や特別な写真フレームの作成など、ここには全て書ききれないほどたくさんあることを、毎日とても充実した時間を過ごしました。また週末のアクティビティとしてホエールウォッチングやカヤックなど自然豊かな環境だからこそできる貴重な体験をしました。宿泊についてはホームステ

### オーストラリアコース 経営学部経営学科 2年 野倉 一輝

私たちが訪れたオーストラリアのゴールドコーストは日本の生活とは大きくかけ離れたものであった。例えば、洗濯の回数が1週間に2、3回であることや、日本と比べると物価が高いことが挙げられる。正直、とても生活のしやすい環境とはいえないものであった。だが、日本よりもずっとゆったりとした時間の流れを感じることができた。ショッピングモールが午後5時には閉まるなど日本では経験できないようなことがたくさんあり、自分の国についてゆっくり考えることができた。

まず、私たちが通っていたボンド大学では最初にプレイメントテストを行い、学生の英語力に合わせて授業が行われた。クラスメイトには台湾やドバイ、中国、ブラジルなど多くの国の学生がいて、すごく新鮮な感覚を味わうことができた。初めは言語の壁を意識しすぎて日本人同士で話をしがちで、せつかくのキャンパスを活かすにいた。だが、慣れてくると台湾の学生たちと遊びに行くなど、気が付いたときには積極的な行動がとれるようになっていた。個人差はあるが確実に英語力が伸び、積極的な人間になることができたと感じている。

ホストファミリーは家庭によって洗濯やシャワーの時間、門限などがあつたが、どの方も優しい方ばかりだった。私たちのたどったような英語に対しても聞く耳をしつかり持つてくださったおかげで私たちは自信をもって会話をすることができた。

今回の語学研修を通して一番強く感じたことは自分の国のことを知らな過ぎたという反省や自分が想像していた以上に言葉の壁がないことに気が付いたことだ。これらの経験をこの語学研修だけでなく生涯の糧にできたら良いと感じた。



平成26年創立記念日クラブ表彰一覧(平成25年10月1日~平成26年9月30日)

▷一般表彰(団体の部)

Table with 3 columns: クラブ名, 大会名, 成績. Lists various sports clubs and their achievements.

この1年間、対外活動・試合などで優秀な成績を収め、本学の名声を高めた文化系・体育系クラブ(団体・個人)に対する「平成26年創立記念日クラブ表彰」が10月11日に行われた。

表彰の対象となる期間は平成25年10月1日から平成26年9月30日までの1年間。団体は、日本代表になったクラブ、全日本選手権大会で8位入賞まで、地方大会で優勝または準優勝、中部・東海地区大会で優勝、県大会で優勝したクラブ。個人は団体と同ランクの成績を収めた者のほか、最優秀選手賞やベストナイン等を受賞した者、その他、活動が特に顕著であったクラブや個人。

今回は団体30クラブ、(うち歯・薬学部15クラブ)と個人96人(うち歯・薬学部40人)が表彰を受けた。

▷特別表彰

Table with 2 columns: 所属, 成績. Lists special awards for the dental department.

▷歯学部(団体の部)

Table with 3 columns: クラブ名, 大会名, 成績. Lists achievements for dental department clubs.

▷薬学部(団体の部)

Table with 3 columns: クラブ名, 大会名, 成績. Lists achievements for pharmacy department clubs.

▷歯学部(個人の部)

Table with 5 columns: 学年, 氏名, クラブ名, 大会名, 成績. Lists individual achievements for dental department students.

▷薬学部(個人の部)

Table with 5 columns: 学年, 氏名, クラブ名, 大会名, 成績. Lists individual achievements for pharmacy department students.

▷一般表彰(個人の部)

Table with 5 columns: 学科, 氏名, クラブ名, 大会名, 成績. Lists individual achievements for various departments.